



2010年10月25日発行（季刊）

特定非営利活動法人 市民シンクタンクひと・まち社

〒160-0021 新宿区歌舞伎町2-19-13 A S K ビル 601

TEL 03-3204-4342 FAX 03-6457-6202

E-mail npo@hitomachi.org URL : <http://www.hitomachi.org>

郵便振替口座 00170-6-410791 市民シンクタンクひと・まち社

「子育て」には社会的な支援を

山本 和恵（第三者評価者・ひと・まち社理事）

私の子育てはおよそ25年前、専業主婦、知り合いのいない土地、夫は残業続きという環境の中、孤立したものだ。子どもは母親がきちんと育てなければならぬと暗黙の重圧を感じるものの、「きちんと育てる」とはどのような状態か、参考にできる子育てを間近にした経験も無く、いつも不安だった。周りに聞いても「母親になったのだから当たり前」、「世の中の常識だ」と、悩みとして受け止めてくれる人はいなかった。子どもの入園を機に区が主催する女性問題を考えるセミナーに参加してみた。一緒に考える仲間と出会うことはできたが、それぞれが自分に植え付けられている女性像・考え方にしばられていて、なかなか話は積みあがらない。このセミナーには保育が付いており、参加者は子どもを預けることを通して、子どもの育ちを支えることを学ぶようになっていた。結局全8回のセミナーでは「重圧」の答えを得られなかったが、子どもの育ちを支える保育に関心が向き、保育者養成講座を経て保育者として活動を始めた。

保育室は就学前の児童を預かり、講座ごとに固定のメンバーが通っていた。保育室は講座の学びに連動しており、保育者は子ども同士の関係



▲生活クラブ子育て広場 ぶらんこ

の中で子どもが変化の様子を親に返す役割をしていた。子どもは固有の人格を持つこと、子どもが友だちと遊ぶためには、子どもが安心して過ご

せるように大人が環境を整える必要があること、子ども同士の関係が生まれるよう支援することなどを、くりかえし保護者と話し合い、保護者と共に学んでいった。「人は仲間の中でのみ育つ」を、保育室の活動を通して実感してきた。

こうした経験から、母親がきちんと育てねばという思いは『子どもの育ちを支える』という役割であると理解ができ、また、母親のみが背負うべきものでもないことが分かった。人は、自分が体験したことと無意識のうちに固執し、他の考え方や見方の受け入れに臆病であることは、多くの人に共通する習性であるように思う。

我が子が「初めて触れる赤ちゃん」という人も多い現在の都市型子育てにおいては、親は努めて仲間づくりをする必要に迫られる。何より子どもには遊ぶ友だちが必要なのである。できれば子ども同士、屋外でのびのびと、大人の干渉を最小限におさえたいが、このような環境はただ待っていても出会えない。親の努力だけに任せられるというには厳しい現状といえる。

その後、私は市民の運営委員として区の子ども家庭支援センターに数年間携わり、母子を誘い出す幾つかのプログラムを行ってきた。一方でプログラムに参加できない母子へのフォローは、待つだけの姿勢やボランティア的な関わりでは届かないことを痛感した。孤立する母子を外の世界とつなげる役割として、専門性を持った職員を地域に配置することが望ましいと思っている。未来を担う子どもが心身ともに健康に育つためには、多くの人の協力が求められていると感じている。